

## 「平成22年度ぎょさい推進全国会議」を愛媛県で開催

～ 漁業経営の安定に向けて「ぎょさいと積立ぶらす」の加入促進を呼び掛ける ～

去る7月15日(木) 愛媛県の「松山全日空ホテル」において、全国から漁業者・漁協役職員の皆様をはじめ総勢119名の参加により、「平成22年度ぎょさい推進全国会議」を開催しました。

会議は、本会猪苗代専務の主催者挨拶に続き、現地開催にご協力頂いた愛媛県漁業共済組合堀田組合長の歓迎挨拶、水産庁大石漁業保険管理官及び愛媛県農林水産部山内水産局長の来賓挨拶が行われた後、「ぎょさいと積立ぶらすについて」と題した基調報告を猪苗代専務が行い、引き続き2名の方の講演が行われました。



体験発表 「魚類養殖とぎょさい」  
愛媛県愛南漁協 専務理事 畑中俊三 氏

最初に、愛媛県愛南漁協 畑中専務より、「魚類養殖とぎょさい」の体験発表を頂き、「ぎょさい」と「漁協」の両面の仕事に携わった経験をもとに、組合員の漁業経営の安定を目指す事こそが漁協の使命であり、その最良の施策が「ぎょさい制度」であると考えている。近年は養殖実態に即した魚種の拡大等の制度改正が進められるとともに、信用事業の貸付金や基金協会の保証の担保としての質権設定も必須要件として確立し、現在では、漁協・養殖業者にとって「ぎょさい制度」は不可欠な制度となりつつある。浜を守るぎょさいの総加入を図り、組合員の経営を守り、漁協の経営の安定化を目指そうではありませんか！ と経験をもとにした体験発表がなされました。【講演要旨は漁済連 HPの「ご加入者の声」をご参照下さい。】



特別講演 「水産を核にした地域振興」  
愛媛大学南予水産研究センター長 山内皓平 氏

次に、愛媛大学南予水産研究センター長 山内氏より、「水産を核にした地域振興」の特別講演を頂き、多面的な機能を持ち独自の地域文化を創っている水産業・漁村は重要な役割を果たしており、漁村が崩壊したら国の海洋政策は成功しないことから、こうした点を国に訴えていく必要がある。漁村社会が生き残っていくためには文理融合型の社会を創り、地域資源を見直すとともに地域に誇りをもつことが大切である。地域振興には、産学官の連携のみならず地域住民の参画も必要であり、それも単なる連携ではなく、より深い結びつきである産学官民の相関関係こそが重要と必要がある。いずれにしても行政がリスクを負う覚悟で先回り、さらに、地域独自の意思決定システムを作り上げる頭に立って進んで行かなければならない。と講演がなされました。

今回の会議では、愛媛県庁、松山市役所、漁協系統をあげた皆様のご支援と温かい受け入れにより、参加者の方々から沢山の感謝の言葉と満足の笑顔を頂き、非常に充実した会議となりました。全国各地よりご参加いただきました皆様と会議開催にご協力頂きました関係者の皆様にご心からお礼を申し上げます。